

氏名(生年月日)	磯田友子 (昭和58年4月24日)
本籍	埼玉県
学位の種類	博士(歯学)
学位記番号	甲第1192号
学位授与の日付	平成31年2月22日
学位授与の要件	
学位論文題目	ダウン症候群児の捕食時口唇閉鎖機能の発達
論文審査委員	主査 荻部洋行 副査 新井一仁 佐藤巖

論文内容の要旨

全身的な筋の低緊張が特徴として挙げられるダウン症候群児では、口唇閉鎖を含む摂食嚥下に関する運動機能発達の遅れが認められる。ダウン症候群児の摂食嚥下機能の発達過程を明らかにすることを目的として、0歳～4歳のダウン症候群児99名(男児52名, 女児47名)と定型発達児群112名(男児64名, 女児48名)を対象に口唇閉鎖機能を比較検討し、以下の結論を得た。

1. ダウン症候群児群は定型発達児群と比べて、体格は有意に小さく、粗大運動能と認知機能の発達に有意な遅れが認められた。
2. ダウン症候群児群の捕食時口唇閉鎖圧は、増齢に伴い増大し、安静時、捕食時、食塊形成時の舌突出は改善した。
3. ダウン症候群児群の捕食時口唇閉鎖圧は、定型発達児群と比べて2歳、3歳において有意に高い値を示した。
4. 捕食時口唇閉鎖圧の変動係数、作用時間、および作用時間の変動係数は、いずれの年齢においても両群間で同様の傾向を示した。

論文審査の要旨

本研究は、ダウン症候群児と定型発達児の体格、粗大運動能と認知機能の発達を比較した上で、口唇閉鎖機能の発達過程を詳細に検討している。その結果、ダウン症候群児は、体格は小さく、粗大運動能や認知機能の発達が遅れるにも関わらず、捕食時口唇閉鎖機能については定型発達児と同様の発達過程を示すことを明らかにしている。これらの知見は、摂食指導の指針作成のための重要な情報を提供し、ダウン症候群児の摂食嚥下機能の解明に寄与するものであり、博士(歯学)の学位に値するものと審査する。